

D 氏邸訪問記(2015.4.29)

1. 始めに

新築で理想的なオーディオルームを構築された D 氏邸には、昨年 3 度にわたって訪問させていただいております。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=2373>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/a5b573eb504c065cb8e44b56f465608f.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/b21e6e8745887b6e6b9c28fc22b69446.pdf>

この時からどのような進展があったか、またパワーリベラメンテと iPhono を持参して D 氏邸のシステムでのパフォーマンスがどうなるかを確認させていただくことにしました。

2. 試聴の経過

M 谷氏邸を辞した後、D 氏邸に向かい、他の参加者とバーベキューをいただいた後、Jensen Imperial が鎮座するオーディオルームに移りました。



D 氏邸のシステムは上記の訪問記を参照していただくとして、その後変更になったところは次の通りです。

まず、これまで使用していた RCA の 6L6 アンプに変わって SD サウンドの 6C33CB の OTL アンプが使われていました。即ち、Jensen Imperial を駆動するアンプは

WE 120A Type Pre Amp(262B+310A)と RCA M9335 Main Amp (RCA 6L6)×2 台であったのが、WE 120A Type Pre Amp(262B+310A)と 6C33CB OTL の組み合わせに変わっていました。また、アナログはノッチングムインタースペースを整備したとのことでした。



しばらく、Studer725 と EMT981 でジャズの CD を聴かせていただきましたが、まるで米国のジャズスポットで食事をしながら楽しんでいるような心地よい音がしていました。Studer725 と EMT981 とともに非常にアナログライクな音がしますが、Studer725 がややゆったり気味、EMT981 がディテールの再現に踏み込むという違いの他は、まるで双方ともアナログを聴いているような雰囲気です。

次にノッチングムインタースペースのプレイヤーでアナログを聴かせていただきました。アームはテクニカ、カーリッジは先端にゴミ取り用のブラシがついたスタントン 681EEE mkII です。

ノッチングムのプレイヤーの音は非常に静かでスタントンも実にすっきりとした音がします。真空管フォノアンプの調子が十分でないとかで、持参した iPhono に取り替えてみましたが、これまで MC ばかり使用してきましたので MM の設定に手間取り、何とか音は出たものの最適化までは出来ませんでした。いろいろな盤でじっくり時間をかけて調整する必要があるようですが、それでもいろいろな音源を楽しむことができました。

ここで持参したパワーリベラメンテを、プリアンプ→パワーアンプの順に替えていきましたところ、3次元の音場感の広がり、音の質感や音像の分離の向上が認められました。再び Studer725 に戻して、インフラノイズのマスタークオリティ盤第4弾の宇野功芳指揮東フィルの「運命」を聴かせていただいたところ、まるで分離の良いアナログを聴いているような印象を受けました。ここで Studer725 の電源ケーブルを、雑誌の付録のケーブルを挟んでパワーリベラメンテに替えてみたところ、パワーリベラメンテではまるでオケの技量が上がったかのようにバランス良く聴こえました。

3. まとめ

iPhono については消化不良のところは残りましたが、負荷容量の設定の追い込み、微振動を受けない設置条件の見直し、iPhono からの引き出しをリベラメンテに替え

るなど、いろいろな手立てが宿題として残りました。D 氏邸には他にもアナログプレイヤーがあり、MC カートリッジなども持参していろいろなチャレンジをさせていただきたいものです。

パワーリベラメンテについては、前の週の M 氏邸でのマランツ SA11-S7 と TASCAM の DA-3000、D 氏邸の直前に伺った M 谷氏邸の AIT Lab. の DAC、そして D 氏邸の真空管プリアンプと真空管パワーアンプおよび Studer725 のいずれにおいても効果を認めました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/12a00f700fe986387de221f3757e7749.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/96ea7537dd1d69d22d12942e786c7d3a.pdf>

SA11-S7 と DA-3000 および Studer725 については拙宅でも経験した範囲内の効果でしたが、AIT Lab. の DAC でのディテールの再現の様子や、これほどとは思っていなかった真空管プリアンプと真空管パワーアンプでの効果には驚かされ、大変参考になりました。

以上